

みんなく映画会

みんなくワールドシネマ

映像に描かれる〈包摂と自律〉



日本劇場未公開作
関西初上映

トルパン

Tulpan

第4回上映会

2010年2月27日[土] 13:30~16:00 (開場13:00)

場 所 国立民族学博物館 講堂

参加料 無料 (ただし、常設展をご覧になる方は別途観覧料が必要です。)

定 員 450名 入場整理券を10:00より講堂入口にて配布いたします。事前申込は不要です。

- 当日は、10時から13時まで、中央アジア展示場にて、映画の舞台になっているカザフスタンに関連して、研究者による解説をおこないます。
- カザフ族の天幕内部も、特別に見学していただけます。
- 整理券をご提示いただければ、割引料金で常設展をご覧いただけます。
- 毎週土曜日は、小・中・高生は観覧無料です。ただし、自然文化園を通行される場合は、入園料が必要です。

2008年/カザフスタン・ドイツ・スイス・ロシア・ポーランド合作/

カザフ語、ロシア語/日本語・英語字幕つき/102分

監督/セルゲイ・ドヴォルツェヴォイ

出演/アスハット・クチンチレコフ サマル・エスリャーモヴァ

解 説 小長谷有紀 (国立民族学博物館民族社会研究部・教授)

主 催 国立民族学博物館

協 力 財団法人 日本映像国際振興協会 東京国際映画祭 / THE MATCH FACTORY

お問い合わせ 国立民族学博物館 広報企画室企画連携係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL. 06-6878-8210 (平日9時~17時) <http://www.minpaku.ac.jp/>

みんなくワールドシネマ

映像に描かれる〈包摂と自律〉

国立民族学博物館では2009年秋から〈包摂と自律の人間学〉をテーマに新しい機関研究を開始しました。この機関研究と連動して、テーマにふさわしい映画を選び、研究者による解説付きの上映会「みんなくワールドシネマ」を始めました。第4回目は、新しくなった西アジア展示場でないなくラクダも登場する、カザフスタン映画「トルパン」です。ユーラシア乾燥地帯の厳しい自然の中で生きる遊牧民の現代生活を通して、多様な価値観をもつ国や人びとが、地球の自然や動物たちとも共生するあり方を考えたいと思います。

第4回上映会

2010年2月27日(土) 13:30~16:00 (開場13:00)

場所 国立民族学博物館 講堂

参加料 無料 (ただし、常設展をご覧になる方は別途観覧料が必要です。)

定員 450名 入場整理券を10:00より講堂入口にて配布いたします。事前申込は不要です。

- 当日は、10時から13時まで、中央アジア展示場にて、映画の舞台になっているカザフスタンに関連して、研究者による解説をおこないます。
- カザフ族の天幕内部も、特別に見学していただけます。
- 整理券をご提示いただければ、割引料金で常設展をご覧いただけます。
- 毎週土曜日は、小・中・高生は観覧無料です。ただし、自然文化園を通行される場合は、入園料が必要です。

主催 国立民族学博物館

協力 財団法人 日本映像国際振興協会 東京国際映画祭 / THE MATCH FACTORY

日本劇場未公開作・関西初上映

トルパン Tulpan

2008年/カザフスタン・ドイツ・スイス・ロシア・ポーランド合作/
カザフ語、ロシア語/日本語・英語字幕つき/102分
監督/セルゲイ・ドヴォルツェヴォイ
出演/アスハット・クチンチレコフ サマル・エスリャーモヴァ

映画解説

カンヌ国際映画祭ある視点部門グランプリ、東京国際映画祭最高賞&監督賞のW受賞など世界を席卷しつつ、日本では劇場公開されずにいた話題作。海軍での兵役を終えて、遊牧民になろうと思いつつも、嫁をもらわなければ遊牧民にもなれない宙ぶらりんな青年の、笑いと涙の結婚物語の舞台となるのは、未だ自然の尊厳が守られた、カザフスタンのステップ地帯。気ままに闊歩する動物から、大人顔負けの自我を育む子どもたちまで、被写体すべてが、何にも媚びず凛と輝く。猛烈なるアタックも、チャームポイントの大きな耳を嫌われ不発に終わったり、思わず見入ってしまう超リアルな羊の出産に立ち合ったりしながら、郷土愛溢れる夢の実現へと一歩ずつ突き進んでいく主人公の、不器用だがガムシヤな姿に、目頭が熱くなる好篇だ。(服部香穂里)

カザフスタンの牧畜生活 解説：小長谷有紀 (国立民族学博物館民族社会研究部・教授)
ユーラシアの乾燥地帯には遊牧というライフスタイルが広く展開してきた。カザフスタンの場合、ソ連邦に組み入れられ、社会主義のもとで近代化を果たす時、広大な地域が小麦畑や核実験場となって、遊牧の移動は極端に縮小された。その代わりに、国营農場や集団農場によって干し草や水が運ばれるようになったため、これまで条件が悪くて利用できなかった土地も有効に利用できるようになった。ただし、かつてのように豊かな草原ではなく、砂塵の舞う砂漠なのである。ソ連崩壊後、市場経済化への移行に伴い、ほとんどの農作業組織が破綻したので、人びとはひとたび失業し、改めて、牧畜を営む企業に牧夫として雇われてようやく家畜の世話をすることができる、という状況になっている。



砂漠で舟になるラクダ

ラクダは、一度に大量の水を飲めば数日間、飲まずに耐えることができるので、砂漠のように乾燥した環境に適している。コブの中には水ではなく、脂肪がつまっていて、断熱材になっている。だから、暑い乾燥地帯ばかりでなく、寒い乾燥地帯にも強い。西アジア原産のラクダはヒトコブで、中央アジア原産はフタコブ。カザフスタンでは、フタコブラクダが主流で、両者をかけあわせたブトと呼ばれる雑種も見られる。



←新しくなった西アジア展示のらくだ

第2期 みんなくワールドシネマ
2010年 5月 スタート!
<http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/movies.html>

「包摂と自律の人間学」

グローバル化の進展にともない、日本国内にはすでに200万人以上の外国籍の人びとが居住しています。また、17組に1組が国際結婚をしている時代です。多様な文化的背景をもつ人びととの共生を実現するために、どのような社会を築いていけばよいのでしょうか。新しい機関研究「包摂と自律の人間学」では、人々の違いを承認=〈包摂〉し、移民や難民に限らず、無国籍者、障害者、失業者など社会的に弱い立場にある人びとが自分らしさを生かすこと=〈自律〉のできる公正で平等な社会を実現する方策について考察します。そして、世界各地に視野を広げて、支援の現場を検討してゆきます。

交通のご案内

●国立民族学博物館(みんなく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。「みんなく」とは大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立民族学博物館の愛称です。

●大阪モノレール

「万博記念公園駅」下車徒歩約15分
●映画会のみ参加される方は、自然文化園を通行される場合、入園料が必要となります。ただし、常設展をご覧になる方は、みんなくの観覧券をゲートにてお買い求めにれば無料で通行できます。

「公園東口駅」下車徒歩約15分

●「公園東口駅」からは自然文化園を通行せずに来館できます。

●バス

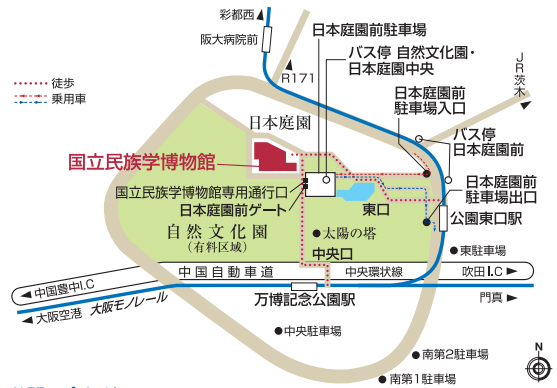
〔近鉄バス〕(阪大本部前行行き) 阪急茨木市駅から約20分
JR茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分
〔阪急バス〕(万博記念公園駅経由由千里中央行き)
阪急茨木市駅から約20分、JR茨木駅から約10分
「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約5分

●タクシー

万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約5分

●自動車

駐車施設が無い「みんなく」への車の乗り入れはできません。万博記念公園の駐車場(有料)をご利用願います。最寄り「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分
●「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある国立民族学博物館専用通行口をお通しください。



お問い合わせ

国立民族学博物館 広報企画室企画連携係
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL. 06-6878-8210 (平日9時~17時)
<http://www.minpaku.ac.jp/>

